

Ⅳ 直播栽培における要防除水準を活用したイネドロオウムシ防除

(平成30年指導参考事項)

1 発生密度の簡易調査法

(1) 幼虫コロニー数

列1m当たりの「幼虫コロニー数」を数える。

○幼虫コロニー

1卵塊(10~20卵)由来の幼虫が寄生し、葉の食害が発生している部分のひとまとまりをいう。

(2) 調査時期と方法

7月上~中旬に1週間毎に3回程度、畦畔から2m程度の位置で畦5列、各1mを1水田につき3カ所以上について幼虫コロニー数を計数し、1m当たりの幼虫コロニー数を算出する。

2 要防除水準に基づいた防除

(1) 要防除水準

幼虫コロニー数が、植え列1m当たりに1コロニーで約10%前後の減収傾向となる。要防除水準として、幼虫コロニー数1個/m以上で防除を実施する。

(2) 薬剤防除

年により要防除水準を超える中発生地域では、発生対応型防除として、要防除水準を超えた場合に、直ちに茎葉散布を実施する。また、例年多発生する地域では、効果の高い種子塗抹処理剤で防除を実施する(表41、図34)。

表41 種子塗抹処理剤の効果

	薬剤処理量		処理方法	トウモロコシ・蛹数or幼虫コロニー数*1				イネシ ² 食害本数	
	10a当	籾1kg当		乾直		湛直		現地湛直	
				H28	H29	H28	H29	H28	H28
キラップシードFS	200ml	20ml	浸種前 塗抹処理	1.5	0	0	4	0.0	2.0
無処理				16	18	15	22	15.3	235.8

調査区面積：乾直は1カ所12㎡、湛直1カ所16㎡、現地湛直1カ所32㎡で、それぞれ6カ所調査。

* 1 H28はイネドロオウムシ幼虫・蛹合計数、H29は幼虫コロニー数を示す。

イネドロオウムシの発生

防除対応

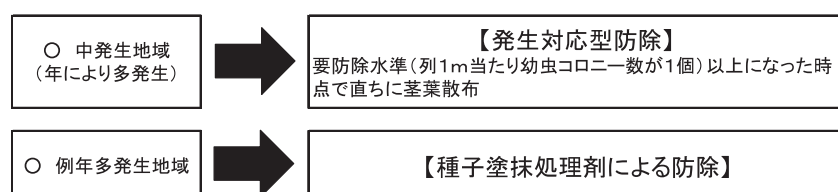


図34 直播栽培のイネドロオウムシに対する効率的防除法